

EZ-WIN総合評価シート 2020.10.4 G1スプリンターズS 芝1200m 15:40 想定馬場 標準「2~-2」外・差し有利 想定RP 43-47

枠番	馬番	馬名	性別	負担重量	予想人気	井内氏評価	調教偏差値A	パターン評価☆	中間調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	ポンレ	最高補正指数	得意馬場	好走前半3FT平均	勝利最低RP指数	好走RP平均	総合評価点数
	1	1	牝7	55	15				D	8,12	11,4	10,2	0		6					109	2⇒-14	32.9	42.1	46.8	19
○	1	2	牝5	55	2	a			A	1,15	1,11	1,14	62		32					115	不問	33.2	42.8	45.6	33
	2	3	牡5	57	3	c				4,10	1,10	1,5	31		32					116	5⇒-17	33.6	42.2	47.3	33
	2	4	牡7	57	14					15,2	13,1	15,7	8		6					104	不問	34.3	44.9	48.4	23
×	3	5	牝6	55	11					8,6	5,10	8,11	22		17					111	不問	34.5	44.6	49.5	12
▲	3	6	牡5	57	4	c			A	8,3	5,2	4,10	67		32		\$	有		111	2⇒-14	34.2	46.6	47.5	34
×	4	7	牡5	57	7					5,11	2,13		13		17		\$			112	5⇒-18	33.9	47.4	47.6	18
	4	8	牡6	57	16				D	8,6	1,11	2,15	8		6					108	不問	34.2	46.0	49.1	11
×	5	9	牡5	57	6				D	8,16	2,7	4,4	21		17					118	7⇒-18	34.4	45.9	49.3	29
	5	10	牝4	55	1	b				8,1	12,1	8,1	0		78	\$			短	120	不問	34.1	49.1	49.7	38
	6	11	牝5	55	13					2,16	4,16	2,11	8		6					109	3⇒-13	33.0	43.5	46.5	19
×	6	12	牡3	55	9	a				3,15	1,10	2,10	10		17					109	-5⇒-18	33.8	44.4	47.1	20
△	7	13	牡6	57	5	c			C	10,2	6,7	6,9	29		32	\$		有		111	不問	34.4	41.5	49.2	26
★	7	14	牝4	55	8					15,1	5,8	11,4	13		17			有		110	不問	34.3	46.6	48.7	17
△	8	15	牡4	57	12	c			D	12,2	2,18	8,11	17		6					115	不問	34.2	47.8	48.1	23
◎	8	16	牝4	55	10	c			C	13,2	14,3	11,9	24		17			有		110	不問	34.5	41.5	49.9	23

2014年の馬場改修工事後は、前半の3F タイムが34秒台になるようなスプリント G1としてはマツタリしたペースになる年もございますが・・・
今年は快速逃げ馬のモズスーパーフレアが出ており、松若殿も本馬の特性はよく把握しておるらしき「逃げ宣言」コメントを出しておりますれば、まずヌルいペースはあり得ますまい。

そうなれば、これまでに前半3F タイムが33秒5以下のハイペース消耗戦で実績を残している馬が馬券の中心となるのがこのレースの特徴でございますな。

よってこのレースに限り、若干項目に変更を加え、「好走前半3FT 平均」なる項目を設けてございます。

これは好走した全てのレースの「前半3F タイム」の平均を算出したもので、この数値が小さい馬ほど厳しい流れを好む傾向が強いと考える事が出来ますな。

また、好走時(勝利・重賞は連対)の最低 RP 指数、好走時の RP 指数平均も同じく数値が小さいほど、今年のスプリンターズ S に適性が高い馬と言うように考えられます。

ただし、グランアレグリアは厳しい流れは「未経験」
そこをどう判断するか？ですが・・・
血統からは評価しづらいところではございますなあ。
純然たる消耗戦ラップとなった NHK マイルで4着(降着で5着)に

敗れておるのが参考となるやもしれませぬな。

あと、調教評価欄の「井内氏評価」は調教捜査官の異名をとる
調教予想家の井内氏が好評価を与えた馬に対し、評価内容によって
a～c の記号を付しております。

馬番を赤文字にしておるのは、G1レポートやメルマガにて
穴馬・伏兵推奨していた馬でございます。

本命は16番アウールアウェイ
G1レポートにも
「ドライな重い馬場になると P サンデー系が強くなる。」
と言うような事を書いておりましたが、本馬は P サンデー系ジャスタウェイ産駒。

土曜の2勝クラス1200m戦の勝浦特別は
良馬場ながらも勝ち時計は1分8秒8という
非常に時計がかかっておる状態でございます。

その勝浦特別を制したのは
9人気の P サンデー系種牡馬ジャスタウェイの産駒。

同じく土曜の未勝利 1200m戦でも1着9人気ダノンシャンティ産駒。

2着は1人気でしたがこちらもPサンデー系キンシャサノキセキ産駒。

更には大外枠に入った上り勝負タイプと言う事で
ここで狙わずいつ狙う？と妄想 Max の K-MAX くまもん。

また、最近の血統傾向として
セントサイモン系・リボー系の血を持つ馬が良く走ります。

本馬の祖母トキオリアリティの父はセントサイモン系メドウラーク。
スプリント適性が非常に高く、厳しい流れに対応しきるタフな血統ですな。
ちなみにネオリアリズム、インディチャンプは本馬の伯父さん。
G1でも通用する牝系ファミリーの一員でございます。

相手筆頭は、馬場不問の中山巧者
2番モズスーパーフレア
馬場傾向が敵に回りますが、重い馬場でも勝ち負けしてきたタフなお嬢。
後続を離して直線に向けば、どこを通るか選び放題。
バテなければ止まらないので、バテない方に張ります。

▲ライトオンキューは3枠大好き。
これまで3度3枠に入って2勝3着1回。
G1レポート「伏兵発掘」に書いたように
父父は欧州を席卷したジャイアンツコースズウェイ。

ブラッシンググルームのクロスを持つことで
タフな馬場、厳しい展開でこそ真価を発揮する血統。
馬場傾向に負けなければ勝ち負けでございましょう。

★エイティーンガールは母父が P サンデー系。
洋芝の北海道で実績を残しており、今の馬場は
苦にするどころか歓迎でございましょう。

レッドアンシェルは2匹目のどじょう狙いで
今回も布林カー着用。
普通に走れば能力は高いので、連下に押さえない所。
リボアの血も持っておりますし。

ダイアトニックもリボア持ち。
ミスターメロディはセントサイモン系持ち。

ダノスマッシュはメルマガにも書きましたが
反動が出やすいタイプで、休み明けが買い時の馬。
またダンチヒの影響を強く受けている馬は
好走⇔凡走をリズムよく繰り返す「カスタネットホース」
になりがちで、本馬は母父がダンチヒ系。
ロードカナロアは、母系の影響をもろに受ける種牡馬。
戦績が示す通りであれば今回は凡走の順番。

今回は来たら御免！で外しておきます。

さぁ問題はグランアレグリア・・・
強いですからなあ・・・

しかしディーブ自体がタフな展開には適性が低く、
スプリンターズ S で馬券になったのはミッキーアイル
以外に記憶がございませぬ・・・

ミッキーアイルは確か母父が欧州型ダンチヒ系であったはず。
それはすなわち「持久力」を生み出す血でございませぬ。

グランアレグリアの場合は母父が米国型APインディ系タピット。

米国血統の特色は「やめることをためらわない」
という部分でございませぬ。

自分に合わないと感じれば、闘志が続かぬのでございませぬ。

NHKマイルの時もタフな流れで前後左右を他馬に囲まれ
揉みに揉まれてやる気が失せたような印象で、最後は流しておったように
感じるのは拙者だけでございませぬでしょうか。

強ければ必ず馬券になるのであれば
毎回複勝に有り金をぶち込めば、良い投資でございますが
アーモンドアイが有馬記念で圏外に飛ぶのが競馬。

高松宮G1で負けた相手は、安田記念で負かしたアーモンドアイより強いのか？
そう考えれば、1200mではパフォーマンスが落ちておるわけで、
今回は高松宮G1以上にタフなレースが予想され、更なる上積みを
期待するのは非常識とさえ思えるのでございます。

舞台がG1で、かつ人気を背負う強い馬でございますれば
取捨はお任せしたいと思うのでございます。

無論、拙者の買目に10番は入っておりますぬ。

馬券

ワイド16-2, 6, 13, 14, 15

3連複フォーメーション30点
16-2, 6, 13, 14, 15一印全頭

3連単2頭軸マルチ24点

2・16⇒6, 13, 14, 15